

「田之浦小学校の山宮神社神楽舞・ダゴ花の伝承活動の取組」

1 学校名

志布志市立田之浦小学校

2 学年・人数

小学1年生～6年生（計17名）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

6月末～7月，1月～2月末

（小学校体育館，田之浦ふるさと交流館舞台）

※ その他，イベント等に出演依頼があった時（平成30年度は0回）

（2）発表の日時・場所

7月 田之浦山宮神社夏祭り（山宮神社）

11月最終土曜日 夜神楽（※奇数年度，今年度はなし）

2月最初の日曜日 ダゴ祭り（山宮神社特設ステージ）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

田之浦山宮神社神楽舞（たのうらやまみやじんじゃかぐらまい）

（2）由来

神舞は，ダゴの奉納とともに古くから行われてきた春祭の行事で，昭和17年の奉納を最後に長い間途絶えていた。昭和57年に神楽保存会が組織され，翌58年2月の春祭に神舞が復活し，12段が奉納された。宮地集落の精米所で焚き火をしながら先輩方の指導により夜遅くまで練習を重ねた。宮崎県の高千穂神楽等の研修を行い，復活した。校区の方々へ披露するために，集落持ち回りの夜神楽を行っていたが，平成10年から，現在25段を2年に1度の夜神楽で奉納している。ダゴ祭りの時には，5段の舞を山宮神社特設ステージで奉納し，その後，ダゴ花取りが行われる。

（3）構成等

現在継承されている25段の舞は，1つ1つの舞が異なり，舞人も小学生から60歳代までと幅も広い。舞によって人数も異なり，1～12人の舞まである。舞人・楽部令人を合わせれば総勢50人程になる。また，ダゴ祭りの際の「ダゴ花」は集落単位で作成され，祭り当日の朝，神社に奉納する。学校でも1本作成している。

5 保存会や地域との連携の具体

神舞は構成等が多種多様で，現在は保存会を中心とした取組になっている。児童生徒，保護者を含め学校や地域の協力のもと，地域ぐるみで実施されている。田之浦小学校在籍であれば舞えるということで，保護者や祖父母も経験者として，子どもや孫たちに励ましの言葉をかけている。現在，校区外から通学する特認校生も重要な担い手として活躍している。また，夕方や土曜日の練習となるが，保護者も積極的に協力し，衣装の着付け等も保存会の方々と共にしている。2年に一度の夜神楽は午後4時から午後10時頃になるため，夜食

の準備等は地域ぐるみで行っている。

ダゴ花は、ダゴ祭り数日前に、高齢者の方々の指導を受けて竹串(ひらひら)作りとダゴ作りを行い、ダゴ花を作成している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

田之浦神楽保存会の指導者と連携を取り、練習日や祭り当日の日程について、学校から保護者への連絡体制を取っている。予算面では、神楽保存会や田之浦校区青少年育成会から支援を受けている。また、生きがい大学や長寿会等、地域の高齢者の指導を受け、ひらひら作りとダゴ花作りも行っている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【ダゴ祭での子ども神楽披露】



【ひらひら作りの様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童】

動きが難しく、覚えられるか心配でしたが、指導者の方が分かりやすく教えてくださったので、できるようになった。本番では、たくさんの方が拍手してくださって、とてもうれしかった。次も参加したい。

【保護者】

生まれは田之浦ではないが、このような伝統ある行事に参加させていただき、ありがたいと感じるとともに、光栄に思う。子どもたちは神楽の練習を楽しみにしていて、練習したことを家でも見せてくれる。本番での神々しい舞を見て、感動するだけでなく、参加させてくださった学校、地域の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいである。

【保存会】

子どもたちは難しい箇所も覚えるのが早く、感心する。地域の伝統芸能の継承に一役かっており、大変ありがたく思うとともに、学校、保護者の方々の協力にも感謝している。

【教員】

保存会の方々が田之浦の伝統行事を守りたい、継続させたいという気持ちが、子どもたちを指導する際に感じられる。子どもたちも、それに応えるかのように、一生懸命練習に参加している。また、保存会、地域の皆様のご厚意で、校区外の特認校生も参加させていただいている。学校、家庭、地域と一体となって行われる神楽は、学校、地域にとっても誇りだと思う。